

県高P連会報

第 110 号
2014.2

編集発行
富山県高等学校PTA連合会
発行人 会長 毛利 一 朗
富山市千歳町1-5-1
富山県教育記念館41号
TEL 076(432)2810
FAX 076(432)1501

平成25年度県高P大会・指導者研修会を開催

平成25年度富山県高等学校PTA大会・指導者研修会が10月22日、ホテルグランテラス富山で開催されました。

開会式では、毛利一朗会長から、「8月に山口県で開催された全国高P連大会において、下村博文文部科学大臣から『日本の教育の再生』と題した基調講演があり、教育再生の必要性とともに夢を持てる教育を進めたいと熱く語っておられました。

10月2日に開催された「富山県青少年安心・安全ネット利用促進連絡会」で報告されたスマートフォン



の利用に
関しては、
本日の記
念講演で
もお話し
を拝聴し
ますが、

今後、高P連としても取り組んでいきたい。」との挨拶がありました。

来賓を代表して寺井幹男教育長より、「子ども達を取り巻く環境が変化し、多くの課題が生じている中で、高P連が特色ある活動や奉仕活動などに積極的に取り組んでおられることに感謝申し上げます。

「富山県教育振興基本計画」を9月に策定し、「富山から世界へ羽ばたき、未来を切り拓く人材の育成」を基本理念として、教育施策に積極的に取り組んでいく。

中高生のネット依存症は全国で8.1%であり、生活や学習の乱れ、不登校等の問題などが生じている。今後、スマートフォンなどを如何に正しく使っていくかが求められており、使い方の約束や学校や家庭でのルール作りが必要である。
本日は有意義な研修となることを

期待し、併せて本県教育への支援をこれからもお願いしたい。会員各位の健勝、発展を祈っている。」と祝辞をいただきました。

続いて「活力あるPTA活動を目指して」をメインテーマに、4校のPTAから研究発表がありました。

一 生徒指導とPTA

泊高校PTA会長 水野 弘

二 子どものケータイ事情を理解する

学校と家庭のより密な
連携をめざして

大門高校PTA副会長 宮島 靖之

三 定時制・通信制におけるPTA活動

3課程PTA活動の活性化

雄峰高校PTA会長 森 真理子

四 学校教育を支援するPTA活動

水橋高等学校PTAの取り組み

水橋高校PTA会長 赤川 学

午後からの全体討議では、各発表校の取り組みに対し様々な質疑応答がなされ、活発な討議が行われました。



その後、生涯学習・文化財室家庭成人教育班の八島美智子班長と高岡高校の佐倉正樹校長から講評をいた

いただきました。

八島班長は、「どの発表にも子どもたちへの愛情を根底とする使命感が感じられた。泊高校の生徒指導などを学校任せにせず保護者が教育活動に参画する姿勢。大門高校の保護者アンケートからニーズをくみ取り、集中的に子どもと取り組むというやり方。雄峰高校のコミュニケーション中心の活動。水橋高校の様々な行事をうまく組み合わせた活用。各学校は規模も特色も異なるが、それぞれの実情を踏まえ、保護者と教師が積極的に連携した実践だった。他校でも参考にしたい。」と助言されました。

佐倉校長は、「各校実情に合わせた工夫された取り組みであった。PTAと生徒が直接語り合う場を設ける学校も増えている。各校でもそういう場を設けてほしい。携帯・スマホの問題は、バイクの「3ない運動」のように皆で考えることが必要なのではないか。高校教育を巡る制度的な変化が数多く議論されているが、PTAとともに考えていきたい。学校毎の取り組みも重要だが、こういう全体会の場での意見交換が大切である。」と助言されました。
最後に、記念講演があり、ネット教育アナリストである尾花紀子先生が講演されました。

記念講演

演題

『高校生のうちに身に付けておきたいネットとスマホのこと』

『リスク&メリット』と『見守る側ができること』を考えよう！』

ネット教育アナリスト

安心ネットづくり促進協議会

「普及啓発広報委員会」副委員長

尾花 紀子 氏

◎講演要旨



社会に出る年齢に近い高校生は、スマホのリスクとメリットを知り、高校生

のうちにつかり身に付けてほしいし、高校生を導く先生方や保護者にも知ってほしいことはたくさんある。高校生のスマホの利用は、女子のほうが少し多いが、男女ともに70%に達している。スマホの利用は低年齢化し、2〜3歳の子にスマホを貸して遊ばせる若い母親も増えている。この夏、悪ふざけ写真の投稿が全国で起きた。グループ内での自分のポジションが作れず、ちよつと面白いヤツにチャレンジしてやろうと、写真を投稿するケースもある。ツイッターとラインの公開性の違い等

は解っているが、スマホの操作が簡単なので考える間もなく投稿してしまう。そして、その投稿を面白がりたり、投稿者を追い込むことを趣味にするような人たちが広め、問題が大きくなっている。

また、自ら出会いを求めて無料通話アプリのIDを掲示板に公開し、被害に遭った子が急増している(警察庁調べ)。背伸びをして大人と同じ体験をしたい年頃の高校生。ネットで知り合った人と「既交会った」「会いたいと思う」女子高生は6割にも及ぶが、「いい人」という自分の判断が正しいことを確認したい意図もあるという。むやみに叱るより、自ら危険を誘う行動をしないように導くことが大切である。

フィルタリングは危ないサイトへ行かないためのものだから、解除せず、カスタマイズして接続許可サイトを増やすことで対応してほしい。また、スマホは小さなパソコン、安全のためにはセキュリティソフトによるウイルス対策が不可欠である。アプリ使用の際に選択肢が表示されることもあるが、毎回選ぶのは面倒だと「今後表示しない」にチェックを入れて省略してしまいがち。でも、このひと手間が「手をとめて考える」瞬間を作り、トラブル回避につながることに気づいてほしい。

変化の激しいデジタル社会への適応力が求められる時代を生きていく子どもたち。「〇〇をしてはダメ」と規制するばかりではなく、安全な使い方を共に考え、危機管理意識や自制心を育み、ネットをプラスに活用できるように導いてあげたい。

◎質疑応答

質問 親は何をしたらよいのか。

回答 子どもとたくさん会話をしてください。そのためには、親子で同じ機種を使い、解らないことを子どもに聞くことも有効です。

高校生は、自ら考え、選択し、導き出すことで、大人が指示する以上の行動をするようになります。子どもが見過ぎてしている部分(危険等)を見える化してあげることが、身近な大人の大切な役割です。

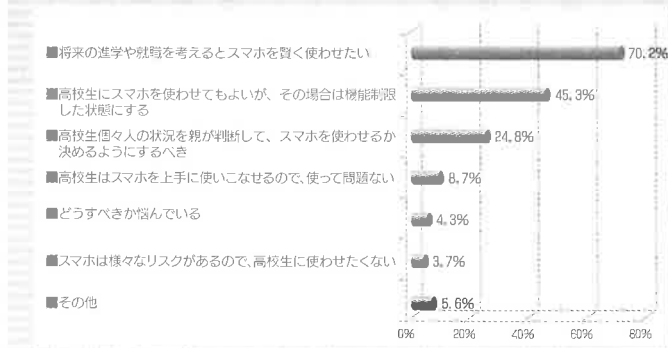
アンケート結果

講演終了後、講演を聴かれた方にアンケート調査を行いました。

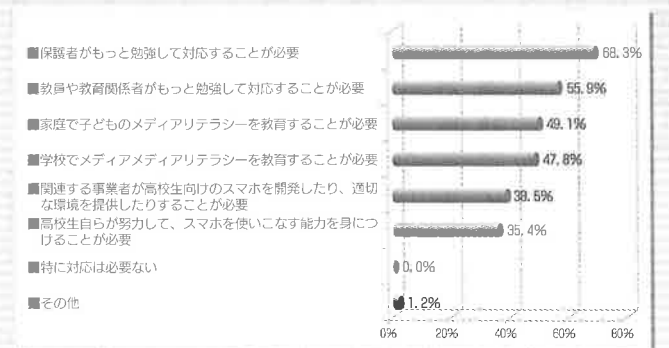
参加者250名余のうち161名から回答を得ました(回答率約64%)。

講演に対して93%が「とても満足」「満足」と答え、講演内容に対しては、92%が「とてもわかりやすい」「わかりやすい」と、98%が「とても役に立つ」「役に立つ」と答えていました。

高校生がスマホを使うことについての考え方(複数回答)



高校生がスマホを活用するためには何が必要とを感じるか(複数回答)



共学共育

＊富山西高校PTA＊

「学校生活、家庭生活、
社会生活の向上を図る」

本校PTAの組織は、会長1名、副会長10名、監事2名、進路指導委員会22名、生活指導委員会23名で構成しております。この役員で、執行部会や役員会、各種委員会を必要に応じて開催しております。

今年度から、役員会の出席者を増やすために、メールで直接連絡したり、土曜日の夕方に役員会を開催したりしたところ、多数参加していただけになりました。

各委員会の活動
といたしました。生活指導委員会では、春と秋に実施している「さわやか運動」を中心に、あいさつ運動や交通安全指導を行っています。



進路指導委員会では、今年度から大学見学会を再開いたしました。子ども達の進路選択を保護者と共有するための企画とし、来年度からはもっと充実した企画にしたいと思っております。



また本校では毎年、PT S座談会と
いって保護者・教師・生徒の各代表があつまり、いろいろなテーマについて意見を交換しております。本年度は「西高校をよくするために」をテーマにしてそれぞれの立場から貴重な意見が数多く述べられました。

本校は、大正13年に県立婦負農学校として設立され、地域の請願等、熱い期待により設立された学校であり、地域の人々の思い入れが非常に強い学校としてスタートしました。生徒の大多数は富山市の居住で、自転車、JRを利用して通学し、勉強や部活動等に日々励み、年々優れた成果をあげています。また、生徒会を中心として、地域におけるボランティア活動に参加する生徒も多いため本校の気風をよく現わしています。

今後も学校や地域の方々と連携・協力しながら子どもたちの明るく、楽しい学校生活の手助けができるように取り組んでいきたいと思っております。
富山西高校PTA会長 片岡 正吉

＊新湊高校PTA＊

「子どもたちと共に歩むPTA」

本校PTAは会長1名、副会長8名、会計監査委員2名、専門委員会各学年委員会の委員30名の計41名から構成されています。専門委員会には総務委員会、生活進路委員会、文化厚生委員会があります。

PTA定期総会は多くの保護者が出席しやすいよう、五月中旬の土曜日に実施しています。総会後は全体委員会として進路指導について学校側からの説明を受け、その後、各学年ごとに懇談会を行います。

10月中旬の土曜日に一、二学年研修会と併せてPTA講演会を行っています。内容は進路選択に関するものと、保健厚生に関するものを隔年で選んで実施しています。

学年委員会では、6月に三学年PTA研修会、10月に一、二学年研修会を行い、進路選択に関する学校からのガイダンスと、子どもたちの学校の様子などについての情報交換を行っています。

本校のPTA活動の特徴は、学校行事に積極的に関わり、子どもたちと一緒に取り組む活動が多いことです。「さわやか運動」では生徒会執行部や自律委員の生徒とともに生徒玄関や校門に立ち、交通安全指導や挨拶運動を行いました。生活進路委員

だけではなく、夏と秋のそれぞれに延べ30名近くもの多くの保護者が参加しています。



3年に一度の新高祭では、三年生の子どもの模範店と並んでPTAも出店し、賑わいの創出に一役買っています。前回は新湊の名物「かけ中（うどんつゆで食べるラーメン）」、「うどん、フランクフルト等を販売し、大盛況でした。収益で学校の応援旗を購入し、野球等の応援に早速活用してもらっています。

また他校にな
い行事として、10月に全校生徒が参加するマラソン大会がありますが、PTAではコース警備に協力しています。校外に出て男子は七・五キロ、女子は四・五キロを走りますが、コースの要所に立って交通安全を確保したり、子どもたちに応援の声掛けをしたりします。子どもたちの学校生活を活気あるものにするため、子どもと共に親自身も楽しみながら今後のPTA活動に取り組みでいきたいと考えています。



新湊高校PTA会長 越後 裕

＊南砺福野高校PTA＊

「学校・生徒・卒業生との連携で委員会活動の活性化をめざす」

本校のPTA組織は、会長1名、副会長9名、監事2名、参与1名、顧問1名の役員と、地区委員および学級委員からなります。地区委員は各地区から選出され（54名）、総務委員会、生徒生活指導委員会、厚生部活動委員会に所属し、学級委員は各クラス2名選出されます。

総務委員会では、年2回発行されるPTA会報「いわお」の編集と大学視察研修の企画を行っています。会報編集で最も力を入れるのが特集です。近年は親と子の関わり方を扱った特集が多く、最近では、「家庭のなかのルール」、「親の思い、子の思い」、「子供の将来と親の関わり」などです。原稿は広く会員から募集しており、会員や生徒が投稿する親子川柳が好評です。大学視察研修では従来の施設見学中心の研修から卒業生の協力を得て、参加型研修への変更を目指しています。

生徒生活指導委員会では、夏、秋のさわやか運動に参加しています。先生方や部活動単位で参加する生徒



たちと一緒に登校する生徒に声掛けを行っています。生徒たちの様子を知るよい機会になっています。また、砺波地区独自の取り組みとして、地区内の他校に通っている生徒の保護者と一緒に夜間巡視活動（Pバッチ）を行っています。

厚生部活動委員会は、PTA研修会の企画・運営を行っています。研修では会員の心身の健康に役立つ実技や講演、高校生の心や身体を理解するための講演などを実施しています。講師も野菜ソムリエ、アロマインストラクター、管理栄養士など多彩です。



学級委員会では、各学年で行われる進路懇談会のサポートを行っています。具体的には進行、記録、受付駐車等の業務を分担し、懇談会の円滑な運営を支えています。また、昨年よりキャリア教育の一環として1年生を対象に実施している進路セミナーの講師選考のお手伝いをしています。今後とも、PTA関連行事の参加者の増加と満足度アップを目標に学校、生徒、卒業生と連携を図り、委員会活動を活性化していきたいと考えています。

南砺福野高校PTA会長 前川 喜男

新年度教育関係予算の充実を知事に要望

県高P連では、1月10日、毛利会長と副会長5名が県庁に石井知事を訪ね、次の4点を重点に県立学校の教育振興を要望しました。

- 一 時代の進展に即応した学校づくりの推進
県立学校における学習環境充実・魅力ある学校づくり推進・グローバル人材育成への支援
- 二 特別支援教育の充実
高等特別支援学校等の充実、高等学校における特別支援教育の推進
- 三 高校生徒指導等の充実
不登校やいじめへの対応、携帯端末やSNS等に係る諸問題への対応
- 四 教員の資質向上
優れた教員確保への対策、教員研修等の充実・支援

これに対して、石井知事から、「人づくりは大切であり、子どもたちの健やかな成長のため施設設備の充実とともに、優れた教員の確保も考えなければなりません。家庭教育については、PTAの協力をお願いしたい。」などの回答がありました。



南砺福野高校PTA会長 前川 喜男

平成25年度の主な事業

- 4月26日 24年度第4回理事会
- 5月14日 第1回幹事会
- 6月4日 定期大会・第1回企画広報員会兼第1回理事会
- 6月中下旬 地区PTA指導者研修会
- 6月25日 第1回生徒生活指導委員会
- 6月27日 第1回家庭教育委員会
- 7月11日 第1回会報編集委員会
- 7月12・13日 北信越地区高P連研究大会
新潟大会
- 8月6日 県P・高P連教育懇談会
- 8月22日 全国高P連大会山口大会
- 9月19日 第2回企画広報委員会
第2回理事会
- 9月24日 第2回家庭教育委員会
- 9月26日 第2回幹事会
- 10月15日 第2回生徒生活指導委員会
- 10月22日 県高P大会・指導者研修会
- 10月29日 教育関係予算の県教委陳情
- 12月5日 第2回会報編集委員会
- 1月10日 教育関係予算の知事要望
- 2月13日 第3回企画広報委員会
第3回理事会

編集後記

平成25年度の県高P連の活動は、新潟北信越大会、山口全国大会と指導者研修会を通して「今、我々親に何ができるのか、何をしたいのか」を考えるよい機会になりました。終わりになりますが、会報発行に際し、多くの会員の方々にご協力をいただき、ありがとうございました。

（会報編集委員長 松田 学）